3.11を忘れない
INORINO KIZUNA
祈りの絆

第 43 号　2017年4月26日　全国発送

日本バプテスト連盟東日本大震災被災地支援委員会　http://www.bapren.jp

【震災募金口座】　振替　００１４０－９－１８０８８１
宗教法人日本バプテスト連盟総務部

福島の今 ～ 原発３０ｋｍ圏からのレポート＜１＞

笹子美奈子（新聞記者・目白ヶ丘教会員）

この春、東京電力福島第一原発事故で出されていた避難指示の多くが解除されました。とりわけテレビや新聞のニュースで多く取り上げられたのが富岡町です。福島第一原発から約10キロ離れており、メルトダウンを起こさなかった福島第二原発が立地しています。

この富岡町にある夜の森公園と付近には立派な桜並木があります。東京ではほとんど知られていませんが、有名な桜の名所に負けないぐらい見事な美しさです。この桜は原発事故後、放射線量のメルクマール※となっています。

桜並木は２キロ以上にわたるのですが、途中にバリケードがあります。バリケードの先は帰還困難区域という放射線量が最も高い地域で、町役場で許可をもらって、放射線防御服を着なければ立ち入れません。政府は除染を行って放射線量を下げ、バリケードを取り除こうとしているのですが、今春も実現できませんでした。

ニュースを聞いていると、福島県の大半で避難指示が解除され、住民が戻った、これでようやく原発事故も終了、そんな印象を受けるかもしれません。でも実際には、立ち入り禁止の地域が多く残っており、避難指示が解除された地域でも、放射線量が高いところがあります。住民の大半が戻っていませんし、生活が落ち着いたという人はごくわずかです。

事故後当初、政府は帰還困難区域について少なくとも５年間は戻れないと説明していました。１０年、２０年ではなく５年にしたのは、住民に希望を持たせるためでした。原発事故の被害をなるべく過小評価したい、その姿勢の表れでもありました。

地元の人たちは政府の見通しの甘さを見抜いていて、当初からもう戻れないとみていました。「戻れないし、戻る人がほとんどいないのに、多額のお金を除染に使うなんて。それより生活再建など他のことに使ってほしい」。実はそんな意見をよく聞きました。

地元と政府のそんなボタンの掛け違えが、復興をますます遅くさせているように思います。

写真は　帰還困難区域に咲く夜の森の桜

※メルクマール　Merkmal
ドイツ語。物事を判断するときに用いる指標、判断基準。最終目的達成までの進捗を確認する中間達成基準や中間地点のゴールの意味で多く用いられる。

笹子美奈子さんのご厚意により2017年度は6回の連載で福島の現状をお伝えします。

笹子美奈子さんの著書紹介：　**リンゴが腐るまで 原発30km圏からの報告 - 記者ノートから -**（角川新書）　864円（税込み）

東日本大震災による東京電力福島第一原発事故の被災者の取材で目にしたものは、その約10年前、2004年の新潟県中越地震の被災地の取材で見聞きしたことと同じことが繰り返されていた。お年寄りの孤独死、アルコール依存症、家庭の崩壊、様々な差別と分断によって生じる地域住民間の不和、帰る帰らないの問題・・・など、目にした現実をキリスト者である新聞記者として著者が訴え報告する。

2017年度福島第一原発事故からの健康被害防止への取り組み

東日本大震災被災地支援委員会（原発課題班）では、福島県にある３教会の教会員と家族のために、本年も次の通り取り組んで行きます。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

１）子ども避難保養プロジェクト
郡山コスモス通り教会及び福島主のあしあと教会（旧福島旭町教会）の子どもたちと家族に対し、転地による健康維持活動のための費用の助成を行います。
現在は両教会による教会の実情に合ったプランニングのもとで低線量地域への小旅行やレクレーションなどを実施しています。皆様からのお声がけを歓迎いたします。

２）放射線被ばくに伴う検診
あゆみの家教会、郡山コスモス通り教会、福島主のあしあと教会の子ども・保護者に対する甲状腺検診と、教会員成人に対する総合健診を進めて行きます。
甲状腺検診（年1回）は、外部機関からの支援により実施しますが、のう胞や結節などの経過観察が必要であり、今後、息の永い活動となる見込みです。また、長期に及ぶストレスから体調を崩しがちな教会員に対して、婦人がん検診を含んだ人間ドックの受診を奨めています。

３）原発大量放射能漏れ避難への準備
3.11東日本大震災以来、常に東京電力福島題意隊原子力発電所の再事故におびえる毎日ですが、それに備えて緊急脱出のためのプランを整備してきました。このことは、2016年11月22日早朝に福島県沖を震源とするM7.4の東日本大震災の余震が発生したことにより、より緊迫感をもって対応しなければならないことを再認識させられました。これを受け郡山コスモス通り教会が中心となり監修した「緊急事態発生マニュアル」のもとで、発生源から250ｋｍ圏外への避難を目指し、個人ごとに防塵マスクや簡易線量計、安定ヨウ素剤などを配布しましたが、引き続き必要な保護具等を整備していきます。

４）線量測定及び「除染」
今もなお、教会施設周囲の放射線量は安心して生活できるレベルまで万遍なく低線量化されてはいないため、教会施設周囲（空間線量）と、教会員が用いる飲料水・食材等の放射線量測定を継続して行きます。尚、線量測定器は現在、鳥栖キリスト教会に設置し、測定実務を依頼しています。飲料水・食材等の測定依頼と検体の送付先は次の通りです。また、検体の送料は東日本大震災被災地支援委員会にご請求ください。
〒841-0051　鳥栖市元町1255-1　日本バプテスト連盟鳥栖キリスト教会
牧師　野中宏樹様　　☎0942-82-4303

2017年度震災募金報告　目標600万円（国内：500万円、国外：100万円）のところ
986万円（国内：954万円、国外：32万円）が265名・件の方から献げられました。感謝申し上げます。

＜2017年2～3月募金者103名・件（受付順、敬称略）＞　日野神明、ふじみ野青年会、古賀、道後、浜松、盛岡、鳥栖、静岡、サカタチヨミ、百合丘、中野、小倉、久留米、西南女学院附属ｼｵﾝ山幼稚園、西南女学院大学・短期大学本部、シオン山、関西地方連合女性会一日修養会、川越、恵、仙川、関西地方連合事務局、トリニライベルクワイア田中由紀子、全国教役者会研修会幹事会、大村古賀島、久保祐子、平尾、福岡有田、大阪、福岡地方連合女性会、松山西、国分、上尾、今治、徳島、企救、広島、太田、中野、調布、東大阪、調布南、鳥飼、神戸、西南学院中学校、西南学院高等学校、恵泉、別府国際、篠栗、恵、奈良、福岡城西、清水栄光、横須賀長沢、目白ケ丘、神戸新生、防府、那珂川、伊集院、北大阪、西川口、日立、豊橋、八王子めじろ台、防府、ＮＴＢＣホソクジン、大井、筑波、東京北、春日原、福岡南、花小金井、高須、東山、古賀、福間、神戸伊川、洋光台、恵泉、青梅あけぼの、市川八幡、茂原、浦和、岡山、高崎、直方、横浜戸塚、相模中央、久留米、スガワラサキ、大宮、伊丹、那覇新都心、久留米荒木、大分、シオンの丘、藤沢、大井あけぼの幼稚園父母会、大村古賀島、志村、下関、飯塚、筑紫野二日市、相浦光